

ともに 前に 1 歩

湯沢市地域学校協働本部
地域学校協働活動ニュース

地域と一緒にになって、子どもを育てる

学校側へのお願い 教育計画への位置づけ

学校現場のどこで地域の力を活用できるか、見つけましょう。

地域の人材を生かす場面はありませんか？教職員では難しい、専門的な指導を必要としていることはありませんか？環境整備を進めたいところはありませんか？

- 1 ボランティアによる活動 学習支援・授業の補助、子どもの安全安心など
＜技能教科・キャリア教育・伝統芸能・スキーなど体育関係・田植えなどの補助
伝統文化・読み聞かせ・ICT・郷土の歴史・地域産業＞
＜登下校の見守りなど＞
＜環境整備：花壇・図書室の整備、学校行事(運動会等)の準備など＞
- 2 体験活動：文化祭や放課後・長期休業中における多様な体験の実施
- 3 地域の資源を生かす 校外学習：文化財、職場体験、学校間交流、自然体験 など
- 4 地域へ参画する 地域貢献でのボランティア活動：清掃、福祉施設への訪問 等 地域団体との連携：地域行事・イベントへの参加や合同実施、地域一斉あいさつ運動 等

ただしこんな悩みも聞こえてきます

- ・ボランティアの方々は → そんな2、3日前に言われてもなあ、都合がつかないわ
- ・学校側の先生からは → 頼むこと自体忙しくて、なかなか見通しが立たないな。

※ ある程度の年間スケジュールが必要ですね。教頭先生や教務の先生と地域学校協働活動推進員を中心に年間でどんな支援が必要なのか、検討する必要がありそうです。

学校とボランティアとのパートナーシップが大事

ボランティアの方々は、学校を支援する下請けの役割ではありません。子どもたち をともに育む大切なパートナーです。学校と地域のそれぞれの強みを生かして、子どもの育ちを見つめましょう。学校に来るボランティアは、不安でいっぱいです。先生方へのお願いです。できるだけ感謝の気持ちを伝えたり、励ましの声をかけたりしてほしいのです。

地域の皆さんへ

やってあげるという姿勢ではなく **一緒に学びをつくる、一緒に育てるという気持ち**で

地域から学校へのボランティア活動が浸透してきています。しかしよく聞くのが・・・・・・
「**せっかくやってあげたのになあ**」という「やってあげた感」の言葉です。ボランティアは、相手の見返りを求めません。地域の皆さんに期待しているのは、子どもが主体的に学ぶための応援者でいてくれることです。決して失敗させないように、「転ばぬ先の杖」のように先立って手伝うことでもありません。

祝



湯沢南地区地域学校協働本部と湯沢西小学校運営協議会が文部科学大臣表彰をいただきました。（写真は、文部科学省で表彰状をいただいていた湯沢南地区本部推進員の小松裕美子さんと高橋恵さんです。）



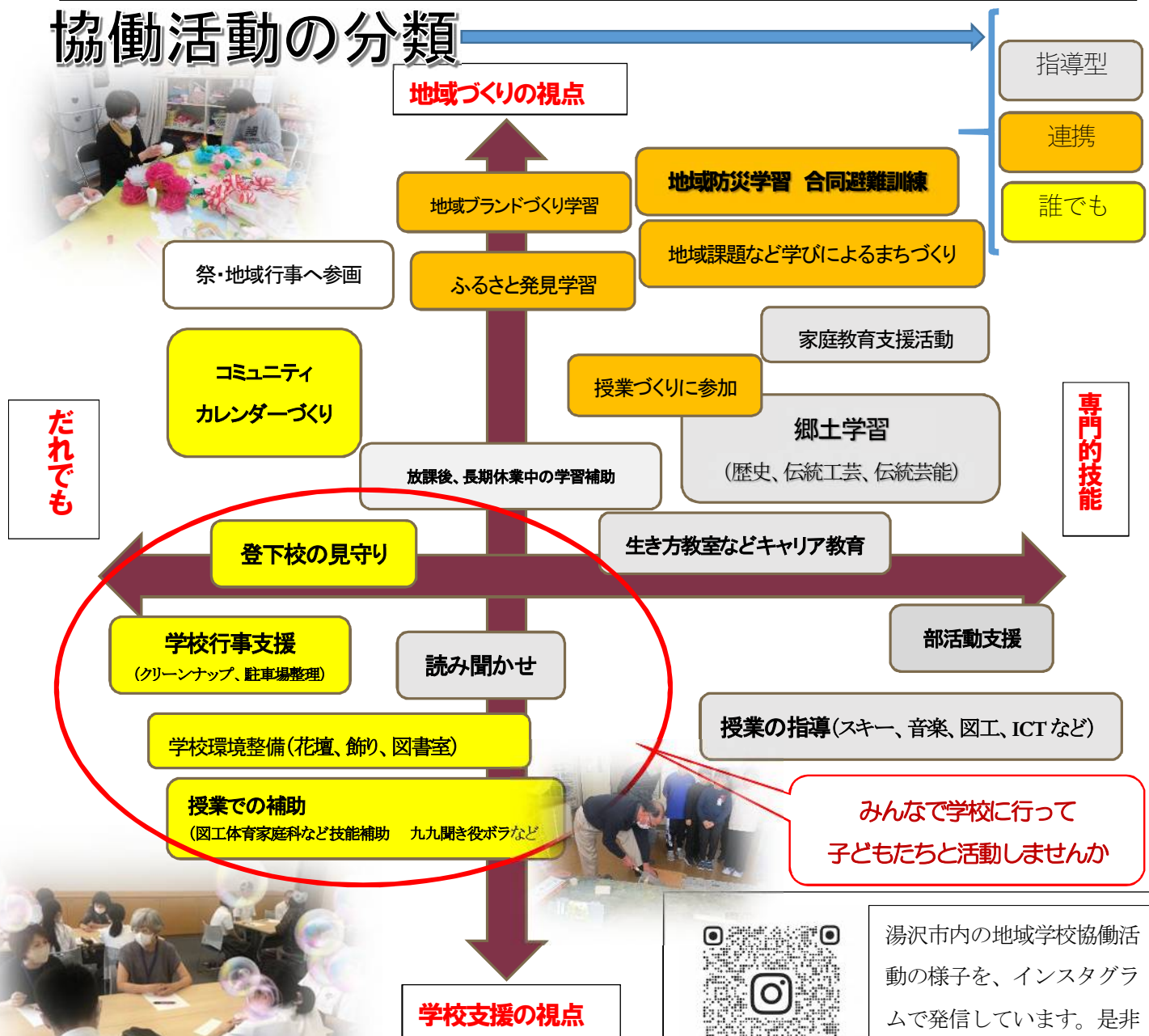
- ・子どものために何かをしたいという地域住民の「思い」に期待しています。
- ・住民がもつ知識や経験を生かして地域に貢献できることに期待しています。
- ・幅広い層の地域住民や団体等が教育活動に参画することで、地域が一層活性化していくことに期待しています。

推進員の役割

学校と地域をつなぐために教育委員会から委嘱された人です。

- ① もし学区の中だけでは、支援が足りないときは他の推進員と連携して広域的な情報を集め、ボランティアを配置できます。ですから、遠慮なく相談してください。ヒト、モノ、コトを集めます。
- ② 事前に授業者の意図やねらいを推進員がしっかりと聞きとります。
- ③ 授業者の意図をボランティアの方へわかりやすく伝えます。（しっかりと待つ姿勢をつくります）

協働活動の分類



問い合わせは・・・ 生涯学習課社会教育班内 73-2163
湯沢市地域学校協働本部 地域学校協働活動統括推進員 鎌田 功



湯沢市内の地域学校協働活動の様子を、インスタグラムで発信しています。是非ご覧ください。